

【ねがいましては】

第104号

平成10年4月24日

共和珠算学習塾

「幸せは躰から」

このタイトルは、PHP2月号の中より引用させていただきました。私の「ねがいましては」の中で、以前「福井の武生」（たけふ）という街へ行ったことを書かせていただきましたが、その土地の地蔵院の住職の方が書いておられるのを知り、「あーあの街にお住まいの方なんだ」と、何かなつかしく思いました。その方はその文章の中でこうおっしゃっています。教育者・哲学者である、森 信三さんのことを取り上げ、子に対する躰の基本として・・・（1）おはようの挨拶 （2）ハイと返事をする （3）はきものをそろえる と、そのご住職の方の教えで（4）いただきます の四つを掲げています。（4）に関しては「いのちをいただくさせていいただいています」というものから一いただきますなのだそうです。確かにたくさんさんの命を私たちは日々いただいております。

次に、森 信三先生は「躰とは、させることではなく何も言わないで親がやってみせることだ」と、おっしゃっているそうです。その躰を親が「し続けるから躰」なのだと、「子供を躰るとは、結局のところ親自身の問題」だということなのだそうです。やっぱり「口」だけではだめなのですね。行動なんですね。たしかに、ひっくりかえって片肘ついて何かをポリポリと口に入れながらテレビを見ているお父さんの傍らで真剣に勉強している子供の姿はちょっと想像できません。

また、PHP1月号には「吉行 あぐり」さんの記事があります。連続テレビ小説で有名になった方です。あぐりさんはこう言います。「子どもたちをしつけたという記憶も特別なですし、うるさく小言を言ったこともございません。ただ、人間としてするべきこと、してはいけないことだけは、きちんと言いました。人に何かをしていただいたら『ありがとう』とお礼を言う。『座布団を踏んだりしてはいけない』とかいったことくらいです。『勉強しなさい』などと言ったことは一度もございませんし。大人になってからも、それは変わりませんよ。」一本のしんの通った方なのだな。強いお心をお持ちなんだなと思いました。

そして次のこの一言は私を「ハッ」とさせました。「わたくしは、子どもたちを信用しております」この一言を自信を持って言われるあぐりさんに私は心の中でパチパチと拍手をしていました。

大人となって親となって歩いてゆく中で、子どもたちに胸を張って生きてゆくことが、私たち「大人」の最低限科せられた使命なんだなとあらためて感じました。

お父さん、お母さん、子供たちの前で、まず親が躰を実践、そして心から子どもを信用して歩いていけたらいいですねー。

5月の予定

4月28日（火）～30日（木）・・・コンピュータ暗算検定試験・・・共和珠算学習塾

5月16日（土）・・・全珠連 珠算・暗算検定申し込み締切

30日（土）・・・全珠連 珠算4級以下 暗算1級以下検定試験・・・共和珠算学習塾

31日（日）・・・全珠連 珠算3級以上 暗算段位検定試験・・・中央商業高校

* 来たる5月20日（水） 東京の山王ホテルにおきまして、アメリカンスクールの珠算競技会が行われます。おそらくニュースで放映されると思います。お楽しみに。